

1. Course Description

身体の形や機能を把握したり、正常と異常を比較するためには適切な”物差し”を使い分けながら”はかる”ことが必要となります。また、その結果が同じであったり異なっていた場合それが何を意味するのかを考え結論を導きだすことが必要となります。

本実技では、身体の基本的な形態的測定および機能的測定を身につけます。それぞれの測定結果が何を意味しているかを考えながら実施します。またこれらの結果から医療面接に必要な基本的技能を養います。この授業はDP1 柔道整復学の関連領域における基本的な科学的知識を有するに該当します。

2. Course Objectives

本授業は柔道整復学における評価測定の基本技術の修得が主な目標です。特に運動器、体の形、筋力、関節の動きがどのような目的で測定され実施されるのかを理解し実践できることを目標とします。

主要な骨のランドマークを体表から特定し触知することができる。

身体各部の大きさや長さを測定し評価することができる。

関節の可動域を測定し評価することができる。

主要な腱反射を誘発し評価することができる。

脈拍と血圧を測定し循環動態を評価することができる。

徒手による筋力評価を実施し評価することができる。

3. Grading Policy

授業での実技内容を3回に分けて実技試験を実施しその習熟度から成績評価を行います(100%)。

3回の実技テスト終了後にそれぞれの範囲の解説をします。

4. Textbook and Reference

Textbook

プリント等を適宜配布いたします。また必要に応じて解剖学などの関連分野のテキストの持参を指示します。

5. Requirements(Assignments)

本実技は身体の測定評価の授業なので測定評価に必要な機材を持参しない学生は受講できません。受講する学生は各人で用意するが、業者が学内で販売を行いますのでその際に購入してください。学内で購入する場合はセット価格で5万円程度です。必要な機材は授業開始前に資料を配布し説明しますので、受講者は必ず説明を聞くこと。

遅刻または早退をした(する)生徒は、メモ用紙などに学籍番号、氏名、入室または退室時間を記入してその都度本人が提出してください。20分以上の遅刻または早退は欠席とします。なお、この実技授業は2コマ(3時間)の連続した授業となるので20分以上遅刻した学生は2コマ分の欠席となります。

6. Note

7. Schedule

- [1] 測定・評価・診察の概要
- [2] 上肢の代表的な徒手筋力検査法を学び測定する事ができるようになる事を目的とする。
- [3] 下肢の代表的な徒手筋力検査法を学び測定する事ができるようになる事を目的とする。
- [4] 徒手筋力検査法に関するまとめ
- [5] 徒手筋力検査法に関する実技評価試験
- [6] 身体の代表的な骨のランドマークを学び、身体各部の長さ・周径の計測ができるようになる事を目的とする。
- [7] ランドマークの触知と長さ・周径の計測に関するまとめ
- [8] ランドマークの触知と長さ・周径の計測に関する実技評価試験
- [9] 血圧・脈拍等バイタルサインの測定
- [10] 上肢の代表的な関節可動域測定方法を学び測定する事ができるようになる事を目的とする。
- [11] 下肢の代表的な関節可動域測定方法を学び測定する事ができるようになる事を目的とする。
- [12] 関節可動域測定に関するまとめ
- [13] 深部腱反射を検査する目的を理解し、検査を行う事ができるようになる事を目的とする。
- [14] 血圧測定・関節可動域測定に関する実技評価試験
- [15] 各種測定・検査法に関する試験の振り返り